

【11月24日 能登災害ボランティアと社会体験 ～おおらかな人は、柔らかい笑顔でみんなを受け止める！】

生涯学習コーディネーター 伊達マリコ

先日、福島民報『みんなのひろば』に猪苗代湖清掃ボランティアに参加した女子高生の投稿が掲載された。素晴らしい内容だったので、それについて感じたことを私も投稿した。

自分の書いた文章(行動)が新聞に掲載され、他者の心に響いた時、例えようのない嬉しさを感じる。もしかしたら、それもボランティア活動の喜びなのかもしれない。

11月24日【能登の災害ボランティア講演会】が福島市大町の「ラ・ユニオン」で開催された。

余談ではあるが、ラ・ユニオンは、世界中を自転車で旅したことのあるシェフが各国の珍しい料理を出してくれるお店だ。私はこの店で北アフリカ発祥の料理「クスクス」というものを初めて食べた。そして、この階の上には宿泊施設もあるとのこと。

午後2時30分、30人程度の人が集まり、並べられたイスは満席である。

今年の1月1日、能登で震災があったことは皆さんも覚えているだろう。たくさん家が潰れ、あちこちで道路がひび割れ、市場の火災の様子がテレビで映された。東日本大震災を経験している私達。何か自分でも手伝えることはないかと思ったはずだ。

しかし、あの時「たくさんボランティアに来られても受け入れが難しい」という報道がまず流れてきた。ボランティアに行っても迷惑をかける存在になってはもともこもない。それに、泊まる場所と食べ物の確保はどうするか...等、災害ボランティアのハードルの高さに躊躇してしまった人達も多いと思う。

さて、今回の災害支援チーム「TEAM JAPAN」のお話で分かったことは①宿泊施設(男女別の寝室、お風呂あり、食事つき)を確保していること②ボランティアの内容(肉体労働のガテン系、宿泊施設の料理担当、傾聴のできる話し相手、それぞれの得意分野)、そして夜のミーティング(交流会)③不登校、引きこもっている人も、ここでの体験で見違えるようになったこと。④このような講演会を全国各地で開催して、被災地の実情や防災に必要なことを伝えていること。

また、福島大災害ボランティアセンターの藤島大右さん(3年)が、登録している仲間とボランティア活動の様子を発表した。「大学生は時間がある。災害

ボランティアをやって良かったと思うことがたくさんある」「バイトもやっています。将来は、学校の先生になりたい」と言っていた。

講演会は参加無料ではあったが、お気持ちを封筒に入れる方式。私は買わなかったが、「能登の塩」や「カレンダー」、「携帯トイレ」の販売もあったようだ。

ボランティア活動は多くの人々の善意でなりたっている。私はたくさん募金ができないので、文章を書いて応援したい。

この災害支援チーム「TEAM JAPAN」をもっと知りたい方は是非検索してほしい。